

私の旅史④【研究所編】



2021年8月 初版公開

2022年7月 最終更新

旅のチカラ研究所 植木圭二

私は旅のチカラ研究所を設立するまでは旅行記を残していない。そこで研究所設立の59才までの私の旅の歴史を「私の旅史」として残すことにした。それは「夢多き青春編」、「新婚子育て編」、「ナイスミドル編」として、旅という切り口で半生を振り返った。

研究所設立後の主な旅行は旅行記に残しており、この「研究所編」では研究所の設立や旅行記全般、これまでの旅の記録をまとめた。年々追加されるので定期的に更新することになる。

第一章 旅のチカラ研究所設立

■定年退職はサラリーマンの特権

旅のチカラ研究所は定年退職の約1年前に設立した。今考えるともっと前、例えば50才くらいでも良かったかもしれない。しかし、きっかけがなかった。

定年退職はサラリーマンの特権だと私は思っている。

現在は多くのサラリーマンの定年退職年齢は60才だが、この60才という年齢は現代においては体力や気力に余力があり、そこから第二の人生を始めることができる。そのうえ退職金という軍資金までもらえるからありがたい。ナイスミドル編で触れたペンションのオーナーは55才で定年退職してからペンションを始めた。もしも定年退職がなかったらペンション開業もなかったかもしれない。

ナイスミドル編で少し触れたが、人生80年を一日に例える話があり、私はこの話を非常に気に入っている。

生まれた時を夜中の0時として80才を24時と定義すると、人の一生の流れを一日の活動に例えることができる。これによっていろいろ面白いことが見えてくる。

人は深夜0時に生まれ、朝3時は10才で人生においても夜明け前だ。朝6時は20才で日の出の頃でこれから一日が始まり成人を迎えてその頃に社会人とし一歩を踏み出す。9時が30才、ウ

オーミングアップも終わりいよいよ本格的に仕事が始まる。昼の 12 時は 40 才、人生の折り返し地点であり、一般的にはこの頃から部課長など要職につき、家庭では一家の大黒柱という存在になる。15 時は 50 才、退社時刻までもうひと仕事できる。18 時は 60 才、ここで就業時間が終わり、定年退職になる。残業をする人は定年延長ということになる。

この夕方 18 時から夜中 24 時までがアラカン（アラウンド還暦：ほぼ 60 才）にとっては勝負の 6 時間である。友人と一杯行くのもよし、スポーツジムに通うのもよし、趣味に興じるのもよし、もちろん早く帰宅して読書やテレビを見るというものもありだ。寝るまでのこの時間を如何に過ごすかということが大きなテーマになる。ここから自分の時間が始まるということで、重要なことは何をするかは自分で決めることができる。こんなありがたい話はない。それが定年退職ということで、まさしくチャンスそれも最後のチャンスかもしれない。

そんな思いをもって夕方から寝るまでの人生のために私は旅のチカラ研究所を立ち上げた。設立の時刻は先ほどの例え話によれば 17 時 42 分だった。65 才になった今は 19 時 30 分、もうそんな時間になってしまった。

人生 80 年とすれば 24 時で就寝、つまり人生を終えるのだが、昨今は人生 100 年とも言われている。

100 才の時刻は翌日の 6 時になる。何かに熱中すれば徹夜することもあるだろう。この 6 時という時刻は実に絶妙で、二度目の夜明けを体験できるという大きな意味を持っている。100 才まで生きるという価値はそこにあるような気がする。問題はその時にどのような状態で夜明けを迎えるかだろう。あるいはどんな夜明けを見ることができるのかで、それは本人の努力、あるいは運かもしれない。

私は、今のところ二度目の日の出を見る予定はない。なぜならば私の場合は 82 才を“あの世”への旅立ちにしている。その時刻は先ほどの例では 24 時 36 分になる。

何時に寝るか、つまり何才まで生きるかは決めておいた方がいい。少なくとも夕方や夜になったならその時刻を決めないと、飲みに行くのか、家に帰るのか、何をするか決められない。

私は定年退職前の人事担当者との面談で「植木さん、何才まで生きるのか決めてください」といきなり言われた。理由を聞くと「それが決まらないと退職金や年金をどうもらうか戦略が立てられないですよ」とのことだった。私は定年退職の少し前には経営品質という企業戦略や経営革新をする仕事もしていたので人事担当の彼がこんなことを聞いてきたのだが、彼のこの言葉によって 82 才と決めたことで私のその後の人生設計や旅行計画に相当に役に立っていることは間違いない。

ちなみに 82 才に決めた理由は、亡くなった両親の年齢を足して 2 で割っただけだ。この年齢は永久不変ではなく健康状況などに応じて見直していくのは言うまでもない。その時に人生設計も見直せばいいので、何も決めないでただ生きていくことだけは避けなければいけないことだと思っている。

さあ、現在時刻は 19 時 30 分、就寝予定の 24 時 36 分までどうやって楽しもうか。

■旅のチカラ研究所設立

2015年3月11日、旅のチカラ研究所を設立した。37年間勤めた会社を定年退職する約1年前のことである。当時掲げた設立の趣旨を以下に記す。

【ビジョン・ミッション】

自分たちの好きなことをして、多少でも世の中の人々に役立つ事業を目指す。

今までの旅や介護の経験を活かし、旅がもたらす感動により実現していく。

【設立宣言】

夫婦ともに60才近くになり今後の人生何をしようか、何ができるかということであれこれ考え悩みさまざまな検討し試行錯誤をした。そして最終的なありたい姿として「自分の好きなことをする」、そしてそれが「多少なりとも世の中の人々に役立つ」、さらにその「役立ち料」もささやかながらも頂ければ幸いということに至った。

自分の好きなことは何かということで旅（旅行）にたどり着いた。ことさら圭二は学生時代の日本一周旅行に始まり、社会人になり、結婚後は夫婦で今に至るまで世間一般の人よりは多くの旅をしてきたのは、やはり好きだからである。

旅によって救われたこと、希望が持てたこと、感謝されたことなどの実体験により旅の持っているチカラに着目することが何度かあったことに起因する。

そして夫婦の目標は死ぬまで100カ国の旅でもある。

旅とは何か、人々は何のために旅をするかという問いに対して、その答えは、旅は人生を楽しむための手段であり、道具である。人生を楽しむための手段＝道具というと、音楽や芸術、スポーツなどと同じように考えられる。

旅を通じた私たちの活動の柱は3つで①旅の探求、②旅の広報、③旅のサポートである。

まず旅の探求とは、より良い旅を探し、作り極めることである。具体的には自ら旅に出て、感動を得ることにより旅の魅力やチカラを新発見、再発見することである。

次に旅の広報は、旅という人生を楽しむ道具の紹介である。こんなに良い道具があるよ、こんな時はこの道具をこんな風に使うと便利で楽しめるとかである。具体的には旅の魅力、旅のチカラを寄稿、出版、講演という方法で広く不特定多数の人々に広めていく。

最後に旅のサポートは、その人に合った旅を教え、補助し、一緒に行ってみることである。その人に合ったということがポイントで、個別にサポートしていくことである。具体的には体力的、年齢的あるいはさまざまな理由により旅に行きたくても行けない人、行くことが困難な人に個別にサポートすることで、介護者として同行し、個別にプランニング・アドバイスをすることである。史江が介護の仕事で培った経験を活かすことができる。

60才近くの事業設立ではあるが、今までの旅や介護の経験を活かしつつも自分たちの可能性を広げ、多少なりとも世間の人々の役に立ちたい。それは事業というよりも実験、研究という位置づけで研究所と称し、ここに「旅のチカラ研究所」設立を宣言する。

2015年3月11日

旅のチカラ研究所 所長 植木圭二
理事長 植木史江

■死ぬまで 100 カ国

旅のチカラ研究所の設立宣言の中にもあるが「夫婦死ぬまで 100 カ国」というのが私たち夫婦の海外旅行での目標になっている。これは私が 40 代の頃に訪問国はまだ 20 カ国にも満たない時代に立てた目標で、100 という数字には大した根拠はない。当時は何事にも数値目標を決めることが重要だという社員教育にも感化されて、国連加盟国が 191 カ国だったので、その半分くらいで区切りの良い数字にした。

しかしこの夫婦で 100 カ国という目標が私の旅行人生において果たしている役割はとても大きい。それは「夫婦で」というのが私たち夫婦にとって大きな意味を持つことになる。だから私がサラリーマン時代に海外出張で行った国々は除外している。それに新婚旅行が私たち夫婦にとって初めての海外旅行だから分かりやすい。

付け加えておくと 100 カ国というのは、正確には地球上の国の数としては 99 カ国までで、最後の 100 カ国目は“あの世”としている。

この国は最後の楽しみにとっておくことにしよう。何しろとても良いところらしく、行った人は誰も戻ってこない。

■リピートしない

このような目標なので同じ場所、同じ国にはなるべく行かないようにしている。そうはいつでもパッケージツアーに組み込まれている場合や、アメリカ合衆国、ロシア、中国のように国が大きいと同じ国でも全く違う所も多くあるので、訪問国の数としてはカウントしないが、臨機応変に考えて行くべき所には行くようにしている。

世の中には同じ場所ばかり行っているリピート専門の旅行者も多い。リピートは楽しみ方がわかっているから楽で安心だ。

私にしても実はもう一度行きたいと思う場所が多くあるが、100 カ国という目標のお陰(?)で、常に行ったことがない国、新しい場所に行くようにしている。するとこんなに凄い場所やこんなに素晴らしい景色がまだ世界にはあったのかと発見することが多い。実のところそういうところばかりのような気がする。それほどに世界は広いということと、旅の感動は予期せぬものとの遭遇という観点からも知らない場所、行ったことのない場所に行くことはお勧めである。

■旅のスタイルはオールラウンド

私は「旅とは移動による非日常体験」だと思っている。非日常体験によって感動をもらい人生を豊かにするものが旅である。人生を豊かにするという意味では、音楽や絵画などの芸術、そしてスポーツとよく似ている。

芸術やスポーツの場合はジャンルというのがあって、あらゆるジャンルをこなす人もいないことはないが、時間も金も才能も限界があってなかなか難しい。芸術やスポーツは、あるレベルにならないと味わえない達成感や満足感があり、究めた者だけが見ることのできる景色があると言われている。時間もかけず努力もせずにその景色は見ることはできないので、そこを目指して練習に励む。そうすると時間は有限なので、ある程度は分野を絞らないとその域に達しない。

旅の場合はどうだろうか。

旅はその目的、移動手段、同行者などによって分類されて温泉旅行、鉄道旅行、家族旅行などと表現される。そしてそれが旅のテーマになっていることが多い。一般的に旅のオタクと呼ばれている人たちは鉄道、温泉のようにテーマを限定しており、その中でも鉄道ならばローカル線の各駅停車、温泉ならば山奥の秘湯などのようにさらに細かいテーマに特化している人が多い。そこまでは芸術やスポーツと似ている。

私は旅の感動というのは、期待値に対して現実との差（ギャップ）だと考えている。旅行は自然や人間との出会い、そこから得るものが感動なので芸術やスポーツのように自己鍛錬は基本的には関係しないと思っている。

あまり期待していないのが良かったとか、成り行きで遭遇したものの感動が大きい。成り行きとは意図しない行為なのでそこから生じることはみな偶然である。その偶然が感動を生むのが、いわゆるサプライズだ。人は素晴らしいものに会った時、予期していないとその感動が倍増する。旅は「偶然と感動」が私の持論である。

これと反対の現象が「期待と落胆」で、期待しすぎて現実との差（ギャップ）がマイナスに振れる。事前にテレビや雑誌で見て、あるいは友人から聞いて期待して行ったが、現実はそうでも無かったというのが往々にしてある。なぜならばテレビや雑誌の映像や写真はプロが撮影するので実物よりも良く見えることが多い。それがプロの仕事というものだ。アマチュアの場合でも最も見映えの良いものを SNS にあげる。失敗作をあげる人は少ない。

話が少し脱線したが、旅の感動は偶然で、つまりそのチャンスに如何に巡り合うかにかかっている。だからいろいろな場所にいろいろな方法で行く方が良い。

私は旅の感動を多くの人たちに伝え、感動を体験して欲しいという主旨で旅のチカラ研究所を設立した。従ってその私が限られた分野だけを旅していたのでは多くの人たちに対して旅を紹介するのは難しい。

最近、私に旅の相談をしてくる人の中で実に抽象的で曖昧な質問が多い。例えば「親孝行をしたいけど何処がいい」とか、「息抜きとリフレッシュをしたい」とか、「ワクワクしたい」等々、極めてアバウトな質問になっている。旅行の相談なのに何処に行きたいとか何をしたいとかではなく、「こういう状態になりたい」という願望のようなものなのである。

そうなるといろいろな楽しみ方や場所を紹介できた方がいい、いわゆる“引き出し”は多い方がいい。その意味でも私の旅のスタイルはオールラウンドなのである。

■旅の分類

オールラウンドを目指している私にとって、旅は様々な形をしているように思える。それを整理するために旅の目的をよく使われる 5W2H を用いると結構面白く分類できる。

まず **Where** だ。何処に行こうかということで〇〇県に行きたいとか、△△地方に行ってみたいというものである。これは場所ありきの旅で、他の場所では代用が効かない。昔の旅は全てこれで、旅は単なる移動で目的地に行くことが全てだった。

次は Why、なぜ旅に出たいのかという問いに対してその答えになるもので、人間の心の叫びに呼応したものになる。例えば自分探しの旅に出たいとか、あるいは失恋の痛手を癒すために旅に出るとかというがある。

そして What、これは最も幅が広い。旅先で何をしたいのか (What to do) と、何を使って行くか (What to use) という問いになる。前者は例えば温泉に行くとか、グルメ目的で行くとかというものになる。後者は移動手段が目的化した鉄道の旅、船旅というものになる。

When は時期だから、季節のものや恒例の旅とかタイミングありきのものになる。例えばクリスマスや正月に旅することや、卒業旅行なんかもその一つだろう。

そして Who は誰と行くかが重要な旅で、家族で行くことが目的ならば家族旅行、同じ会社の社員一同ならば社員旅行になる。

最後の 2H は How much と How many days で予算と期間になる。費用や期間ありきで始まる旅のことだ。とにかく 1 万円で旅したいとか、2 泊 3 日で行けるところに行くとか、この制約も結構面白い旅になる。

旅に行こうとした時に最初に旅の目的を明確にして、上記のどれだろうということを念頭に置くといい。目的をはっきりさせると計画を立てる時や現地で予定変更になった時などに、この旅の目的は何だったのかを問うとぶれることが少ない。目的は複数でも構わない、その場合は優先順位を付けることを忘れないようにしたい。

第二章 旅行記

■旅行記は楽しい

私は自分で書いた旅行記を時々読み返す。その未熟さを感じることも多々あるが、それでも当時のことを振り返ることができて実に楽しい。そこには今後の旅行に対するヒントを見つけることもできる。

一般的に「旅行は 3 度楽しめる」と言われている。旅行に出る前の計画や準備をするワクワクする楽しみ、もちろん旅行中の楽しみ、そして旅行から帰って振り返る楽しみである。その振り返り方は人によって様々で、一緒に行った人とその時に旅行の話で盛り上がることも、アルバムを見て思い出に浸ることも、私の場合は旅行記を読み返すことになる。

信じられないことかもしれないが、私はそれに加えて旅行記を執筆することも楽しみになっている。

なぜ旅行記の執筆は楽しいのか。

それは私だけの特別な事情かもしれないが、旅行記の執筆は私が少年時代そして入社してから仕事としていた新しい商品（電子機器）の設計開発に似ているという理由からである。

新商品の構想を立て設計し試作し検証するというプロセスと旅行記執筆とは共通点が多い。

構想は、いわゆる商品企画というもので商品のコンセプトになる。旅行記の場合では何を伝えるかという思想のようなもので、この思想がない旅行記は単にどこに行って何があって綺麗だったとかいう無味乾燥のレポートのようなものになる。

次の設計は、構想を具現化して機能を実現させるためにどのような技術や部品を使ったらいいかというもので、そのためにはどこの電圧を何ボルトにするとかという詳細なことを決めていく作業になる。それは旅行記では実際に行った名所旧跡、現地で食べた料理や知り合った人々をどうやって組み合わせたら伝えたい思想が表現できるかということになる。そのためには様々な体験や人との出会いも重要になる。

試作して動作させ検証する作業では、組み立てて動作させ修正するという試行錯誤が繰り返される。旅行記においてはペンを動かす執筆作業で何回も書き直すことになる。粗方出来上がっても同行者の合意などが必要なこともあって完成させるのには細かいチェックが必要になる。電子機器でいうと認証作業や電波法や電気用品安全法に適合しているかの審査だ。

今振り返ると技術者にとって開発業務とは大変な作業だったが、達成感や創造欲に駆り立てられて寝る間も惜しんでやっていた。それが退職してからも旅行記という対象物はまるっきり違うが同じような経験ができることは本当にありがたい。

■旅行記には感動が必要

2022年7月現在で旅のチカラ研究所を設立して約7年余り経っており、旅行記は100作書いている。海外旅行の全てと国内旅行でも主なものは旅行記に残しており、結果的には行った旅行の2/3くらいになり、残りの1/3は旅行記を書いていない。

書かない理由はプライバシーの問題や時期を逸したというタイミングの問題もあるが、それらは少数で、旅行には行ったもののあまり感動がなかったという理由が多い。自分自身が感動をしていないと、いかに美辞麗句を並べても読む人に感動を届けられないのは明白だ。せっかくお金と時間を使って行くのだから、感動のある旅にしないではいけなくて反省しきりである。

それにしても海外旅行は全て書いているということは、海外旅行はいかに感動が大きいかということの意味している。それも行ったことのない場所に行くからかもしれない。

■旅行記を旅行期間で分類

研究所設立後の主な旅行は旅行記が残っている。個々の旅行については触れないが、まずは旅行期間（How many days）で分類すると全ての旅行記が網羅される。

【11日間以上】6作

東国お遍路の旅 2013～2017（2013年9月22日 3年半の間で合計約20日間）

地球一周の船旅 2016（2016年4月12日 106日間）

オセアニア船旅 2018（2018年1月8日 56日間）

草津温泉 2018 春夏秋冬（2018年4月8日、7月29日、9月30日、2019年1月27日
7日間×4の28日間）

日本一周鉄旅 2018（2018年6月6日 12日間）

南米の旅 2020 (2020年2月21日 11日間)

【7日～10日間】13作

箱根駅伝歩き旅 2015 (2014年1月11日 10日間)
イタリア格安パック旅行 2016 (2016年2月18日 8日間)
小豆島八十八霊場歩き旅 2017 (2017年5月24日 8日間)
バルト3国の旅 2018 (2018年10月16日 10日間)
旧ユーゴスラビアの旅 2018 (2018年12月6日 10日間)
豪華客船の旅 2019 (2019年2月22日 9日間)
QE 豪華客船の旅 2019 (2019年4月19日 10日間)
MSC クルーズ 2019 (2019年9月30日 10日間)
ブルガリア・ルーマニアの旅 2019 (2019年10月22日 8日間)
紀伊半島の旅 2019 (2019年11月20日 7日間)
四国お遍路の旅 2020 (2020年12月6日 9日間)
石和温泉の旅Ⅱ2021 (2021年5月7日 3日間と、5月28日 4日間)
伊豆諸島の旅 2021 (2021年12月4日 8日間)

【4日～6日間】19作

博多発船旅 2015 (2015年3月28日 6日間)
秩父往還歩き旅 2015 (2015年11月29日 6日間)
小笠原の旅 2017 (2017年7月6日 6日間)
山形の旅 2018 (2018年3月18日 4日間)
ハワイ島リゾート 2018 (2018年4月22日 6日間)
琵琶湖・北陸の旅 2019 (2019年3月23日 5日間)
東関東の旅 2019 (2019年5月9日 4日間)
津山と神戸の旅 2020 (2020年10月6日 5日間)
ロマンチック街道の旅 2020 (2020年11月24日 4日間)
五島列島の旅 2020 (2020年11月28日 4日間)
北関東・東遊記 2021 (2021年7月11日 6日間)
石和温泉の旅Ⅲ2021 (2021年8月21日 2日間と、9月2日 3日間)
三陸の旅 2021 (2021年10月7日 4日間)
奄美群島の旅 2021 (2021年11月4日 5日間)
冬の道北の旅 2022 (2022年3月4日 4日間)
伊豆箱根の旅 2022 (2022年4月17日 5日間)
山陽山陰の旅 2022 (2022年5月13日 4日間)
伊豆諸島の旅Ⅱ2022 (2022年5月19日 6日間)
ミステリーツアー岡山 2022 (2022年6月10日 4日間)

【3日間】25作

極寒キャンプ 2017 (2017年2月11日 3日間)
富士山一周の旅 2017 (2017年12月9日 3日間)
群馬神流の旅 2018 (2018年5月2日 3日間)
日光・みなかみの旅 2018 (2018年5月28日 3日間)
信州、トマト収穫 2018・2019 (2018年8月9日 3日間と、2019年8月5日 3日間)
極寒キャンプ 2019 (2019年1月13日 3日間)
奈良飛鳥の旅 2019 (2019年4月1日 3日間)
塩原温泉の旅 2019 (2019年9月1日 3日間)
甲斐の旅 2019 (2019年12月8日 3日間)
子連れ草津温泉 2020 (2020年1月1日 3日間)
極寒キャンプ 2020 (2020年1月18日 3日間)
格安！冬のバス旅 2020 (2020年1月27日 2日間と、2020年2月2日 3日間)
奥多摩・秩父の旅 2020 (2020年6月7日 3日間)
小田原及び近郊の旅 2020 (2020年7月12日 3日間)
伊豆の旅 2020 (2020年8月24日 3日間)
足柄の旅 2020 (2020年9月17日 3日間)
洞爺湖とトマムの旅 2020 (2020年9月27日 3日間)
壱岐と対馬の旅 2020 (2020年10月17日 3日間)
宮古島の旅 2020 (2020年11月15日 3日間)
ミステリーツアー東北 2020 (2020年12月19日 3日間)
ミステリーツアー中部 2021 (2021年11月13日 3日間)
富士山と山梨の旅 2021 (2021年11月21日 3日間)
日本丸の旅 2021 (2021年11月27日 3日間)
茨城の旅 2022 (2022年4月21日 3日間)
草津・四万温泉の旅 2022 (2022年6月21日 3日間)

【2日間】28作

歴史を旅する信州上田 (2016年11月13日 2日間)
ハワイリゾート1万円の旅 (2017年4月20日 2日間と、11月19日 2日間)
大平、古民家の旅 2017 (2017年9月6日 2日間)
格安！伊豆の旅 2017 (2017年10月24日 2日間)
秋の京都、座禅修行 2017 (2017年11月 2日間)
箱根の旅 2018 (2018年7月7日 2日間)
伊豆大島の旅 2018 (2018年9月17日 2日間)
宝川温泉の旅 2018 (2018年11月11日 2日間)
塔ノ沢温泉 2018 (2018年11月28日 2日間)
箱根フリー切符の旅 2019 (2019年3月17日 2日間)
草津温泉一泊の旅 2019 (2019年7月6日 2日間)
軽井沢の別荘泊 2019 (2019年8月10日 2日間)

石和温泉の旅 2019 (2019年8月23日 2日間)
日光銀山平キャンプ 2019 (2019年9月21日 2日間)
月夜野温泉の旅 2019 (2019年12月2日 2日間)
飛鳥Ⅱの船旅 2019 (2019年12月20日 2日間)
西山温泉の旅 2020 (2020年8月2日 2日間)
秩父の旅 2020 (2020年8月23日 2日間)
河口湖ゴルフ旅 2020 (2020年10月20日 2日間)
大山の宿 2020 (2020年10月22日 2日間)
湯河原温泉の旅 2020 (2020年12月4日 2日間)
伊豆山温泉の旅 2021 (2021年3月21日 2日間)
信貴山の旅 2021 (2021年3月31日 2日間)
城崎温泉の旅 2021 (2021年4月2日 2日間)
千葉ローカル線の旅 2022 (2022年3月22日 2日間)
利島の旅 2022 (2022年4月2日 2日間)
石和健康ランドの旅 2022 (2022年4月7日 2日間)
続・足柄の旅 2022 (2022年4月13日 2日間)

【日帰り】9作

安・近・短な離島リゾート、初島 (2016年12月17日)
三峯神社歩き旅 2018 (2018年12月30日)
千葉鋸山の旅 2019 (2019年6月16日)
座間市一周の旅 2019 (2019年6月18日)
相鉄沿線の旅 2020 (2020年1月16日)
ミステリーバスの旅 2020 (2020年3月6日)
神奈川県七島巡り 2020 (2020年7月20日)
先取り初詣秦野 2020 (2020年12月30日)
百舌鳥・古市の旅 2021 (2021年3月29日)

■旅行記を特徴分けする

次は What、つまり旅行の手段 (What to use) と旅行先で体験すること (What to do) で顕著なものをピックアップしてみる。この作業によって旅行記のジャンルが整理される。

【歩き旅】

箱根駅伝歩き旅 2015、秩父往還歩き旅 2015、小豆島八十八霊場歩き旅 2017、三峯神社歩き旅 2018、千葉鋸山の旅 2019、座間市一周の旅 2019、先取り初詣秦野 2020

【船旅】

地球一周の船旅 2016、オセアニア船旅 2018、博多発船旅 2015、豪華客船の旅 2019、QE 豪華客船の旅 2019、MSC クルーズ 2019、飛鳥Ⅱの船旅 2019、日本丸の旅 2021

【鉄道の旅】

日本一周鉄旅 2018、相鉄沿線の旅 2020、三陸の旅 2021、千葉ローカル線の旅 2022

【バス旅】

塩原温泉の旅 2019、格安！冬バス旅 2020、ミステリーバスの旅 2020

【温泉】

ハワイリゾート 1 万円の旅、格安！伊豆の旅 2017、草津温泉 2018 春夏秋冬、箱根の旅 2018、宝川温泉の旅 2018、塔ノ沢温泉 2018、紀伊半島の旅 2019、琵琶湖・北陸の旅 2019、月夜野温泉の旅 2019、草津温泉一泊の旅 2019、塩原温泉の旅 2019、石和温泉の旅 2019、子連れ草津温泉 2020、西山温泉の旅 2020、城崎温泉の旅 2021、冬の道北の旅 2022、草津・四万温泉の旅 2022

【キャンプ】

極寒キャンプ 2017、富士山一周の旅 2017、極寒キャンプ 2019、日光銀山平キャンプ 2019、極寒キャンプ 2020、

【歴史散策】

歴史を旅する信州上田、奈良飛鳥の旅 2019、小田原及び近郊の旅 2020

【信心の旅】

東国お遍路の旅 2013～2017、小豆島八十八霊場歩き旅 2017、秋の京都座禅修行 2017、四国お遍路の旅 2020

そして費用（How much）についてもピックアップしてみる。ただ私は基本的に安く旅することをモットーにしているので、ほとんどの旅行はおそらく普通の人の半額近い費用で行っている。その中でも格安の旅を列挙する。

【格安の旅】

イタリア格安パック旅行 2016、格安！伊豆の旅 2017、日本一周鉄旅 2018、草津温泉 2018 春夏秋冬、ハワイリゾート 1 万円の旅、塩原温泉の旅 2019、格安！冬バス旅 2020

第三章 旅の記録

■旅の記録

旅を研究するというのは、まずは自分が行った旅の棚卸から始まる。だから旅のチカラ研究所

を設立して最初に行ったことは、今まで私が行った旅の全てを洗い出してリストアップしたことであった。それも記録が残っている旅だけにして写真などにより時期と場所が特定できるもので、曖昧な記憶だけというものは含めていない。

しかしその作業がかなり大変だった。研究所を設立する前の私の旅は、旅行記はもちろんメモもないものが大多数である。残っているのは写真だけで、その写真を頼りに場所と時期を特定するという作業になった。写真に日付が入っていれば場所の特定だけで済むが、日付がない場合は写真から日付を割り出す作業になった。それは例えば背景に映り込んだポスターを拡大して時期を割り出して当時のカレンダーで月日を特定する作業で、刑事ドラマの証拠集めのようなことになった。

そして膨大なリストが完成した。海外旅行は全てを網羅しているが、国内旅行の一泊や日帰り旅行は写真があっても追えないもの、写真さえないものが多い。だから実際はもう2割くらいは多いかもしれない。

■旅の日数と費用

完成したリストによって全貌が明らかになった。2022年7月現在で海外旅行と国内旅行の合計は441回で1574日、その費用は3625万円にもなっている。費用の定義は私の財布から出た金額ということにしている。友人との旅はもちろん割り勘で、夫婦や家族で行った時には全額になり、親の援助や子供たちが独立して自ら支払ったならばそれを差し引いた額になっている。

これを海外旅行と国内旅行に分けて比較してみる。海外旅行は29回、総日数は360日、平均日数は12.4日、費用は約1924万円になる。国内旅行の回数は412回、総日数は海外の約3倍の1214日、平均日数は2.9日、費用は約1701万円になった。一日当たりの費用は海外旅行が5.3万円、国内旅行が1.4万円であり海外旅行は金がかかる。それでも長期クルーズが2回あるのでこの程度でおさまっているのかもしれない。

■現在までの訪問国

現在までの私たち夫婦の訪問国は61カ国になる。訪問した順番から列挙すると、以下のようになる。再訪した国には★を付け、これは61カ国にいていない。

フランス、スイス、USA（オアフ島）、★USA（グアム）、エジプト、ギリシャ、サイパン、韓国（釜山）、中国（北京）、シンガポール、マレーシア（ジョホールバル）、タイ、スペイン、★USA（フロリダ、NY）、バハマ、カナダ（ナイアガラ）、イラン、台湾（台北）、★中国（香港）、カンボジア、ベトナム（ホーチミン）、トルコ、オーストリア、チェコ、ドイツ（ドレスデン）、スロバキア、ハンガリー、★韓国（済州島）、イタリア、ヴァチカン、★マレーシア（コタキナバル）、★シンガポール、スリランカ、キプロス、北キプロス、★ギリシャ（サントリーニ島、ピレウス、アテネ）、★イタリア（シチリア島カタニア）、★スペイン（モリトル）、ポルトガル、★フランス（モンシャンミッシェル）、UK（ロンドン）、★ドイツ（ハンブルグ、リュベック）、スウェーデン、ロシア（サンクト・ペテルブルク）、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、アイスランド、★カナダ（PEI）、ベネズエラ、オランダ領キュラソー、パナマ、グアテマラ、★USA（オアフ島）、★台湾（基隆）、フィリピン（セブ島）、インドネシア（バリ島）、オーストラリア、ニュージーランド、★フランス（ニューカレドニア島）、ソロモン諸島（ガダルカナル島）、パプ

アニューギニア（ラバウル）、★USA（ハワイ島）、リトアニア、ラトビア、エストニア、ポーランド、セルビア、ボスニアヘルツェゴビナ、クロアチア、モンテネグロ、スロベニア、★台湾（基隆）、★韓国（釜山）、★韓国（釜山）、ブルガリア、ルーマニア、ペルー、ブラジル（イグアス）、アルゼンチン（イグアス）。

■世界の七大陸と島

いわゆる世界の七大陸については、現在の段階では南極大陸以外は全て行っている。私が島国の日本を離れて最初に大陸の土を踏んだのは新婚旅行の時に、ヨーロッパ大陸に行ったのが最初になる。以降はアフリカ大陸、アジア大陸、北米大陸、南米大陸、オーストラリア大陸の順番で訪問してきた。

残念ながら南極大陸はまだ行っていない。南極大陸はどこにも属さないなのでこの大陸に渡っても国数が増えることはない。しかしそれでもいつかは行きたいとは思っている。やはり七大陸制覇は一つの目標だ。

日本国内においては北海道、本州、四国、九州の4島以外を島と定義しているが、地球規模では七大陸以外は全て島と呼んでいる。私が訪問した世界の島を列挙してみると33島になる。

【太平洋】18島

韓国の済州島、台湾、香港島、シンガポールのシンガポール島とセントーサ島、マレーシアのコタキナバルのあるカリマンタン島、太平洋戦争で有名になったラバウルのあるパプアニューギニアのニューブリテン島、ガダルカナル島、フィリピンのセブ島、ミクロネシアのグアム島とサイパン島、ハワイのオアフ島とハワイ島、ニュージーランドの北島と南島、オーストラリアのタスマニア島、ニューカレドニア島とダック島

【インド洋】2島

セイロン島、インドネシアのバリ島

【地中海】6島

地中海のキプロス島、イタリアのシチリア島、エーゲ海にあるギリシャのエギナ島、ポロス島、イドラ島、そして有名なサントリーニ島

【大西洋】6島

英国のグレートブリテン島、デンマークのシェラン島、アイスランドのアイスランド島、カナダのプリンスエドワード島、バハマの首都ナッソーのあるニュープロビデンス島、カリブ海のキャラソー島

【湖にある島】1島

ヨーロッパのバルカン半島のスロベニアにあるブレッド湖に浮かぶブレッド島

■日本国内の島

日本国内の島の総数は、1987年の海上保安庁の発表ではその数は6852島になる。この調査の島の定義は外周100m以上としている。都道府県別では一番島の数が多い県は長崎県で971島、次いで鹿児島県の605島、北海道の508島と続く。そのうち人が住んでいる島の数は2015年の国勢調査によると416島という。これには住民票があるだけという島もあり、年々過疎化も進んでおり正確な数を把握するのは難しい。また政治的、軍事的、宗教上の制限もあって私たち一般の旅行者が行ける島の数は約400というところだろう。

そして私が今まで行った日本の島を列举してみると77になり、この中には無人島も入っている。

【北海道・東北】7島

北海道の利尻島、礼文島、山形県の飛島、宮城県の桂島、野々島、寒風沢島、朴島

【関東・東海】20島

千葉県の仁右衛門島、東京都の伊豆大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、八丈島、青ヶ島、小笠原の父島、母島、南島、神奈川県の新島、城ヶ島、天神島、猿島、野島、琵琶島、八景島、静岡県の新島

【北陸・関西】8島

新潟県の粟島、佐渡ヶ島、石川県の舳倉島、能登島、滋賀県の竹生島、沖島、和歌山県の南紀大島、兵庫県の淡路島

【中国・四国】6島

広島県の宮島、江田島、大久野島、大崎下島、宇品島、香川県の小豆島

【九州（沖縄除く）】23島

福岡県の能古島、長崎県の福江島、平戸島、生月島、高島、端島（軍艦島）、久賀島、奈留島、若松島、中通島、頭ヶ島、壱岐、対馬、熊本県の湯島、上島、下島、大矢野島、宮崎県の青島、鹿児島県の屋久島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島

【沖縄】13島

沖縄本島、屋我地島、古宇利島、八重山の石垣島、西表島、竹富島、波照間島、宮古の宮古島、大神島、池間島、伊良部島、下地島、来間島

■世界遺産

2022年6月時点で世界遺産登録数は1154件、そのうち文化遺産は897件、自然遺産は218件で、複合遺産は39件しかない。日本の総数は25件で、内訳は文化遺産20件、自然遺産5件、複合遺産はない。

日本にある世界遺産25件のうち私が行ったことがないのは1件で、1993年日本で最初に登録

された「白神山地」だけである。実は私は青森の十二湖周辺に旅行したことがあり、白神山地の世界遺産部分に行ったことがあるとばかり思っていた。しかし詳しく調べてみると実はそこは登録エリアに入っていないことが分かった。登録のコアエリア（核心地帯）のみならず、私が行った地域はバッファエリア（緩衝地帯）にも入っていなかった。

それ以外は全て行ってはいるが、完全にとは言い難い面がある。それは最近の登録で複数一括登録（シリアル・ノミネーション・サイト）というものがあり、例えば 2015 年登録の「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は 23 施設が 8 県にまたがっている。これら全てに行っている訳ではない。

日本以外の世界遺産を列挙してみると、私が行った海外の世界遺産の数は 90 か所で決して多くないことに気が付く。その理由は世界遺産を意識しないで旅行先を選んでいたことと、クルーズ船で寄港した国が多いのでその場合は行動範囲が限られるためだ。

【アジア】 12

韓国 1（済州火山島の溶岩洞窟群）、中国 3（故宮、万里の長城、明十三陵）、シンガポール 0、マレーシア 0、タイ 0、イラン 6（イスファハーンのイマーム広場、ペルセポリス、ヤズド、イスファハーンのマスジェド・ジャーメ金曜モスク、ペルシア庭園、バムとその文化的景観）、台湾 0、カンボジア 1（アンコールの遺跡群）、ベトナム 0、スリランカ 0、フィリピン 0、インドネシア 1（バリの文化的景観）

【ヨーロッパ】 58

フランス 5（パリのセーヌ河岸、ル・アーブル、ロワール渓谷、モン・サン・ミシェルとその湾、ヴェルサイユ宮殿と庭園）、スイス 0、ギリシャ 1（アテネのアクロポリス）、スペイン 7（タラゴナの考古遺跡群、グラナダのアルハンブラ宮殿、コルドバの歴史地区、セビーリャの大聖堂他、アントニ・ガウディの作品群、マドリードのエル・エスコリアール修道院と王立施設）、オーストリア 2（シェーンブルン宮殿と庭園、ウィーンの歴史地区）、チェコ 3（プラハの歴史地区、チェスキークルムロフ、レドニツェ・ヴァルチツェの文化的景観）、ドイツ 2（ハンザ都市リューベック、シュパイヒャーシュタットとチリハウスのあるコントロールハウス地区）、スロバキア 0、ハンガリー 2（ブダペスト、トカイ地方のワイン産地の歴史的文化的景観）、イタリア 8（ローマの歴史地区、ポンペイ、ヴェローナの市街、ヴェネツィアとその潟、ナポリの歴史地区、フィレンツェの歴史地区、ピサのドウオーモ広場、ヴァル・ディ・ノートの後期バロック様式の都市的景観（シチリア島南東部））、ヴァチカン 1（ヴァチカン市国）、キプロス 0、北キプロス 0、ポルトガル 2（リスボンのジェロニモス修道院とベレンの塔、シントラの文化的景観）、イギリス 2（ロンドン塔、ウェストミンスター宮殿）、スウェーデン 0、ロシア 1（サンクト・ペテルブルクの歴史地区と関連建造物群）、フィンランド 0、デンマーク 0、ノルウェー 3（ベルゲンのブリッゲン地区、ノルウェー西部のフィヨルド、ガイランゲルフィヨルドとネーロイフィヨルド）、アイスランド 0、リトアニア 1（ビリニユスの歴史地区）、ラトビア 1（リガの歴史地区）、エストニア 1（タヴァティカン史地区）、ポーランド 1（ワルシャワの歴史地区）、セルビア 0、ボスニアヘルツェゴビナ 1（モスタル旧市街の石橋と周辺）、クロアチア 5（スプリント、歴史都市トロギール、ド

ウブロヴニクの旧市街、シベニクの聖ヤコブ大聖堂、プリトヴィツェ湖群国立公園)、モンテネグロ 1 (コトルの文化歴史地域と自然)、スロベニア 0、ブルガリア 4 (カザンラクのトラキア人の古墳、イワノヴォの岩窟教会群、ボヤナの教会、リラの修道院)、ルーマニア 1 (シギショアラの歴史地区)、トルコ 5 (トロイアの遺跡、エフィソス、イスタンブール、ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩石群、ヒエラポリスとパムッカレ)

【アフリカ】 4

エジプト 4 (メンフィスもピラミッド群、古代都市テーベと墓地遺跡、ヌビアの神殿群、カイロの歴史地区)

【北米・中米】 4

USA2 (自由の女神、ハワイ火山国立公園)、カナダ 0、バハマ 0、グアテマラ 1 (ティカル国立公園)、パナマ 1 (パナマ・ヒエホ考古遺跡とパナマの歴史地区)

【南米】 7

ベネズエラ 0、ペルー4 (ナスカとパルパの地上絵、クスコの市街、リマの歴史地区、マチュ・ピチュ)、ブラジル 1 (イグアス国立公園)、アルゼンチン 1 (イグアス国立公園)、オランダ領キュラソー1 (ウィレムスタットの歴史地区：キュラソーにある内陸都市)

【オセアニア・太平洋】 5

オーストラリア 3 (オーストラリアの囚人収容所遺跡群、シドニーのオペラハウス、ブルー・マウンテンズ地域)、ニュージーランド 1 (テ・ワヒポウナム)、ニューカレドニア 1 (ニューカレドニアのサンゴ礁)、ソロモン諸島 0、サイパン 0、パプアニューギニア 0

■追記

私の旅史では過去を振り返って、夢多き青春編、新婚子育て編、ナイスミドル編を書いてきた。どれも 20 年間くらいにまとめているので、この研究所編も 20 年を目処に 100 カ国目の“あの世”に旅立つまで追記していくつもりでいる。